

# タブレットで安全と効率化実現

震災時の課題から開発

## ダンプ運行管理システム試行

日本道路東北支店

日本道路東北支店は、アスファルト合材工場でのダンプ運行管理システム「NDリンク」の試行を開始し、28日に宮城県岩沼市下野郷の仙台南アスコン工場で運用状況などを公開した。

東日本大震災の復旧・復興工事に伴い、大幅に増加した県外からのダンプ

の運行に関し、「場所がわからない」「説明に時間がかかる」などの課題を踏まえ、効率的な運用を図るため、東北支店独自の視点からシステム開発した。

ナビシステムに、その日の現場情報や最短ルートなどのデータを入力したタブレットをクラウド

運転手はボタン一つで荷卸し終了まで報告が可能となる。事務所では運行中ダンプの位置、到着予定時間、車番、ドライバー名などが映し出され、一目で運行状況が把握できるほか、次の現場情報もタブレットで指示ができる。

このシステムによって、ダンプ待ち時間の削減によるCO<sub>2</sub>削減、目的地の地図印刷や配布作業を無くし、安全でスムーズな運行とペーパーレスの実現、ダンプの使用口

できるというメリットもある。

仙台南アスコン工場は、日本道路東北支店と大林道路東北支店、ガイアート東北支店、鹿島道路東北支店の4社共同企業体で運営。ダンプ運行会社13社と契約し、20〜40台のダンプを運行管理する。今回、試行期間としてタブレット10台を揃え、将来的には全台分での運用を視野に入れている。

三塚利彦同支店製販部長は「ダンプ運転手の高齢化や人手不足が深刻。このシステムによって効率的な運用が図られ到着予定時間なども瞬時に分かるため、顧客側の利便性も向上すること話す。」

同支店では、東北発のシステムをさらに深化させ、全社での運用を目指し、本社とともに開発を進めていく。

事務所に設置されているスクリーンには、ダンプの運行状況などが一目で分かるように映し出されている

サーバーを介して、運転手と工場事務所を4G回線などでつなぐシステム。自動で5分おきにダンプの位置情報が分かり、